

奈良のお水取りも過ぎて、ずいぶん暖かくなり春めいてきました。桜の開花は平年より少し遅いようですが、各地からの花便りももうすぐです。現在会員登録数 787 人さま。ご愛読いただきありがとうございます。次号は 4 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 19

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●「第 28 回ニッサン童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,052 編、絵本 398 編、計 2,450 編の中から、入賞作品 38 編を決定しました。

・童話の部 大賞 『ぐうたら道のお師匠さん』 瀧下映子 さん

・絵本の部 大賞 『ぴっちとりた まよなかのサーカス』 長尾琢磨 さん

上記の 2 作品は、後日、絵本として出版されます。

※入賞作品展 3 月 29 日 (木) まで開催中

大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

開催日・時間は、上記館の開館日、時間に準じます／

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『鷹のように帆をあげて』 まはら三桃/作 講談社 2012年1月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ: 中学1年生の理央は、片手に赤い手袋をはめたまま登校している。理央と親友の遥はペットショップに鷹の雛を見に行き、遥が理央に手袋を片方貸して別れた直後、交通事故で亡くなってしまふ。理央は、毎日ペットショップにその雛を見に行き、1年近くたってから遥に空を飛ぶ鷹を見せたいと思い、両親や友だちに見守られながら鷹を育て、飛ぶ訓練を行う。

Y: 理央が鷹のモコを育てていく過程が、丁寧に描写されていますね。

O: 女子中学生と鷹匠という組み合わせがおもしろいよね。しっかり取材をして書かれたようで、ノンフィクション的な魅力もありました。

Y: 福岡市が舞台になっていて、会話文は方言になっています。そのことで、登場人物どうしの人間関係に温かさを感じました。

O: ストーリーでは、鷹の訓練開始の年齢が遅かったにも関わらず、飛ばすことに成功し、遥のお母さんに鷹の飛翔を見せることによって、遥の死を受け入れられるようになっていきます。心の過程との繋がりがうまく描かれています。

Y: 結末で、モコが理央の赤い手袋を取って飛んでいくシーンは赤色が印象的でとても美しいと思いました。青空への鷹の飛翔が心の解放だったことがよくわかります。

O: そのわかりやすい書き方は、功罪半ばでしょうか。理央の心の痛みが、読者の身体の中まで届きづらい面もあるかな。

Y: 理央の幼馴染でお寺の養子として育てられている康太や、鷹匠の先輩である平橋さんの心の葛藤ももう少し深く知りたいようにも思いました。

O: とはいえ、思春期の少女の自己実現が、社会性のある設定の中でしっかり描かれていて印象に残る作品でした。今後さらに期待したい作家ですね。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 19

「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル e. 動物の擬人化」

昔話には多くの動物が擬人化されて登場します。その擬人化のイメージは文化的背景によって異なります。それは、それぞれの土地の人たちが、身近な動物をいかに理解しようとしたかということと、動物を通して自分たちの生活をいかに表現しようとしたかによって動物の描かれ方が異なるからです。

同じように、子どもの本にも多くの擬人化された動物が登場します。これは、動物に託すことによって人物像が単純化されたり、その動物の特性を生かすことによって、ある性格を際立たせたりすることが可能になり、わかりやすくユーモラスな作品が生まれる可能性が広がるからだと思います。

動物が擬人化された絵本として、多くの人が『ピーターラビットのおはなし』（ビアトリクス・ポター/さく・え いしいももこ/やく 福音館書店 1971年）を思い浮かべるでしょう。

この作品の絵はウサギのデッサン力に優れていると同時に、青い上着を着ているピーターはいかにもいたずらっこのように見えます。ピーターがマクレガーさんの畑で野菜を食べるとするのはウサギならではの行動ですが、お母さんの言いつけを破って一人で畑へやってくるという行動は、子どもが日々、経験していることです。

『ピーターラビットのおはなし』には、動物を擬人化した絵本ならではの選書のポイントが含まれています。それは、絵も登場人物像もその動物の特徴や生態がしっかりと捉えられているということです。絵本の中には、残念ながら、カバカゾウかわからないような絵が描かれていたり、ウサギでなくイヌでもこの物語は成立すると思われたりする作品もあります。

そして、その動物である必然性があるということは、作者がその動物を人間とは異なる種としてとらえ、その種に対する畏敬の念を抱いていることにつながります。それは、作品が、一人一人の子どもを一人の人間として尊重しているかどうかということと関わる重要なポイントだと思います。

*次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル f. ことば遊び絵本」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 19 回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●東京大学大学院法学政治学研究科附属 近代日本法政史料センター

http://www.j.u-tokyo.ac.jp/lib/meiji/cmj_facility.html

大変長い名前ですが、昔から通称「明治新聞雑誌文庫」と呼ばれている施設です。その名の通り、明治期をはじめとする近代の貴重な新聞・雑誌を多く所蔵していることで知られています。調査研究における雑誌の重要性は本欄でもたびたび触れていますが、この施設の存在によって、研究者はもちろん、編集者や行政関係者など、多くの利用者が直接間接の恩恵を受けてきました。

創立は昭和2年。きっかけは大正12年の関東大震災でした。震災で出版社も壊滅的な被害を受け、明治大正期の多数の出版物が焼失・散逸しました。こうした状況を憂慮した、吉野作造や石井研堂、宮武外骨らの「明治文化研究会」は、資料保存の必要性を痛感。これを機に新聞雑誌保存館が構想されました。ちなみに、石井研堂は明治期に一時代を築いた児童雑誌『小国民』編集者であり、明治文化研究者でもあった人です。

また、反骨のジャーナリスト・宮武外骨は事務主任としてこの事業に関わり、心血を注いで史料発掘・収集にあたったと言います。結果、これまでに新聞2,021タイトル、雑誌は7,518タイトルに達し、その他錦絵やパンフレット類など関連資料は約5,790点に及びます。

児童向けの新聞雑誌も多く所蔵しており、明治大正期の資料を探す場合、必ず視野に入れておきたいところです。ただ、所蔵資料の検索は、基本的に「館内限定公開」となっており（個人コレクションの一部はサイトで閲覧可）、現在は印刷媒体の目録が中心です。現在オンライン公開準備中とのことです。期待して待ちたいと思います。複写や資料の問い合わせには応じてくれるとのこと。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その20〉の予定です。

《4》 行って来ました！

兵庫県の有馬温泉街にある、有馬玩具博物館に行ってきました。ここは日本でも有数のおもちゃ博物館。6階建ての各フロアに、「ドイツの伝統的なおもちゃ」「現代のおもちゃ」「現代のからくり・オートマタ」「ブリキのおもちゃと鉄道模型」とテーマごとに約4千点のおもちゃが展示されています。

まずは6階フロア。ドイツ職人の技で培われた「煙出し人形」が吐くお香の香りがかすかに漂い、くるみ割り人形やミニチュアのおもちゃがたくさん並んでいます。ミニチュアは実に細かいところまで手作業で作られていて見飽きず、思わず手にとってみたいくなります。

博物館スタッフが実演・解説する「おもちゃガイド」の時間。5階では、シンプルな形の積み木が、みるみるうちにお城やお花畑になるさまは見事です。3階の模型の列車が走る大きなジオラマでは、大人も子どもも前のめりになって、食堂車の内部に目を凝らしたり、土手で手を振る人形を発見したりして楽しんでいます。

現在公開中の映画『ヒューゴの不思議な発明』にちなんで、企画展『ファンタジーとオートマタ展』が開催されているのは4階です。映画では、機械人形（オートマタ）が重要な役割を果たしますが、映画に登場するジョルジュ・

メリエスは史上初のSF映画「月世界旅行」を製作した人物だそうです。その原作となったジュール・ヴェルヌ著『九十七時二十分間月世界旅行』の翻訳本（大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵）が展示されています。その挿画を描いたのが有馬出身の方だとは不思議なつながりです。

ケースの中のオートマタは、ボタンを押せば、からくりを知ることができます。危うく食べられそうになる人間、泳ぐ人魚、ラインダンスなど滑稽な動きがおもしろく、片っ端から動かしてみました。おもちゃの世界を存分に楽しんだ後は、ショップでからくり人形のキットを買い、道向かいにある「金の湯」でゆっくり足湯をしてから家路につきました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 第22回 箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月1日（日）～5月15日（火）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）
・一般の部A部門（個人団体を問わず当コンクール入賞経験者）
・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会

問合せ先：箕面市立中央図書館

● 大阪国際児童文学館を語る会・考える会 in おおさか

日時：4月1日（日）午後1時30分～

場所：エル・おおさか（大阪市中央区北浜東）

内容：第1部 講演会 清水眞砂子（児童文学者・翻訳者）

「わからなさを耐えるということー今という時代を生きるためにー」

第2部 コンサート「アイルランドやブリテン島周辺のケルト音楽」

ふいご/金子鉄心 アコーディオン/藤沢祥衣

参加費：有料

主催：大阪国際児童文学館を育てる会

● 人形劇団クラルテによる新作人形劇

人形劇：いえでででんしゃ

場所：宝塚ソリオホール（宝塚市栄町）

日時：3月30日（金）13：30 18：30 3月31日（土）13：30 開演

入場料：3歳以上有料

主催：（財）宝塚市文化振興財団 / 人形劇団クラルテ

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

● 紹介と解説「2011年に出版された子どもの本」参加者募集！
絵本・読物・知識の三つのジャンルにわけて、その傾向を解説します。
また期間中、おもな本を会場に展示します。

1. 日 時：5月11日（金）、12日（土）、13日（日）
各回とも 午前10時30分～午後4時（内容は同じです）
2. 場 所：大阪府立中央図書館 2階大会議室
3. 定 員：各回とも 80名（申込み先着順）
4. 参加費：無料
5. 主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
共 催：財団法人 大阪国際児童文学館

お申し込み、詳細は ↓↓

<http://www.library.pref.osaka.jp/central/jibunkan/newbook.html>

■ IICLO MAGAZINE NO.18 ----- 2012/2/21
★★★ 財団法人 大阪国際児童文学館 メールマガジン ★★★

もうすぐ東日本大震災から1年。被災した子どもたちに本を贈る『いっしょだよ』キャンペーンは、先日の第5次配布で終了しました。お寄せいただいた寄付金は約2,400万円（集計中）にのぼり、寄贈要望のあった336施設に18,450冊の本を贈ることができました。本当にありがとうございました。現在会員登録数777人さま。次号は3月21日発行の予定です！

+----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----+

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
 - 《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk
 - 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 18
 - 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー
 - 《4》 行って来ました！
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

+-----+-----+

■-----■
【1】お知らせ

● 第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ 受賞作品原画の展示

1. 日 時：（1）平成24年3月6日（火）～11日（日）
（2）平成24年3月6日（火）～29日（木）
*ただし、図書館の開館日時
2. 場 所：（1）大阪府立中央図書館 エントランス
（2）大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー
3. 入場料：無料

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募ってい

ます。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『雨上がりのメデジン』 アルフレッド・ゴメス＝セルダ/作 宇野和美/訳
鈴木出版 2011年12月 対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：コロンビアのメデジン市の山の中腹のスラム地区に住むカミーロとアンドレスは、学校に行かず、毎日町をうろついている。二人は町に新しく出来た図書館に行き、カミーロは父親のお酒を買うために本を盗む。センサーが作動しなかったのは、司書のマールさんが操作していたからだとわかったのは三度目に盗んだ時だった。カミーロは三冊目の本を売らないが、そのために家に帰れなくなり、二人は一緒に外で夜を過ごす。

Y：この作品は、「この地球を生きる子どもたち」というシリーズの一冊です。このシリーズは、これまでもさまざまな国や地域の子どもたちを紹介しており、注目していました。

O：コロンビアのスラムという、多くの日本の子どもの生活とはかけ離れた生活をしている子どもたちが描かれています。盗むことに罪悪感を抱かず、将来、立派な泥棒になることを夢見るカミーロにリアリティを感じました。

Y：そんなカミーロといつも一緒にいるアンドレス。彼は父親のような泥棒にだけはなりたくないと思っています。けれどもカミーロが何をしていても変わらぬ友情でいつも寄り添います。家族よりも誰よりもお互いを信頼し、強い絆で結びついている様子が伝わってきました。

O：結末で図書館員が盗むならこの本をといってカミーロに本を手渡して、カミーロが本をお酒に変えることをせず、自ら読み始めるあたりは、樂觀過ぎる感じもありましたが…

Y：カミーロは盗んできたレンガの壁を隠すために、雨が降るたびに壁に泥を塗らなければなりません。アンドレスと一緒に泥を塗って女の子のように肌がすべすべになって、女の子にならないかと心配するというエピソードなど、ユーモラスな部分も楽しかったです。

O：原題は『メデジンのどろ』ですが、『どろにまみれたメデジン』と訳すこともできると思います。私にとってはこちらの方がぴったりくるように感じました。とはいえ、カミーロがメデジンは世界一の場所だと愛着を示す場面など、説得力のある描写が数多く、スペイン人の作家がコロンビアの情勢をしっかりと取材して書いた力作だと思いました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 18

「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル d. ナンセンス絵本」

ナンセンス絵本とは、「<センス=意味>がない」という意味ではなく、常識の枠を超えた考えで成り立っている絵本のことを指します。

つまり、現実とのズレの中にこそおかしさが潜んでおり、ズレによって私たちは「あたりまえ」だと思っていることが必ずしもあたりまえではないということに気づかされ、おかしさと同時に、社会の矛盾や自己の視野の狭さにドキッとします。

日本のナンセンス絵本作家といえばやはり、長新太、佐々木マキ、井上洋介でしょう。

長新太の『キャベツくん』（文研出版、1980年9月）は「ブタヤマさん」と「キャベツくん」という思いもつかない登場人物が会って、いきなり、ブタヤマさんが「キャベツ、おまえをたべる！」と言います。そんなブタヤマさんを「ブキャ！」と言わせるキャベツくんの返答は、ブタヤマさんの変身を示唆します。ここには、「食べる」ことの意味、アイデンティティの問題が関わっていますが、空に浮かぶ大胆な絵で表現されたキャベツくんの奇想天外な発想が繰り返し披露されるため、笑いにつながります。

一方、佐々木マキの『ムッシュ・ムニエルとおつきさま』（絵本館、2001年10月）に描かれる世界は、ヤギと人間が共存し、魔法が存在します。洗練された線で描かれた整然とした都会の風景が私たちの世界とのズレを感じさせます。ムッシュ・ムニエルはその世界で月を落として人間に取られたり、月を大量に空に浮かべたり、失敗を繰り返し、読者はおかしいながらも、共感します。

そして、井上洋介の『でんしゃえほん』（ビリケン出版、2000年1月）には、ページをめくると「見立て」によるおもしろさがあります。ドーナツ型の電車、電線の上を走る電車など、あり得ないと思いつつも、あつたらいいなと思うことで楽しく、電車は決まった形をして決まった所を走るものという常識を崩される楽しさがあります。

子どもに絵本を選ぶとき、子どもから笑いが起こる絵本は読み手にとっても聞き手にとっても心地よい経験ですが、排泄物が出てくるから笑う、ダジャレのみで笑うという絵本ではなく、あえて笑いの質を問いたいと思います。

* 次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル e. 動物の擬人化」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 18 回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

● 少女雑誌コレクション (菊陽町図書館)

http://www.kikuyo-lib.jp/hp/08_menu.htm

近年、さまざまな分野の研究者が少女雑誌に関心を向けています。これは現在、〈少女〉やティーンエイジ、あるいは若者文化についての研究がさかんになり、こうした研究を進めるための資料として、少女雑誌へのアクセスが増加しているものと思われます。

しかし、古い少女雑誌は、なかなか一次資料にあたるのが困難です。例えば、我が国の少女小説のパイオニア・吉屋信子の『花物語』は、『少女画報』『少女の友』などに掲載されましたが、いずれも復刻版はおろか、総目次さえありません。

熊本県にある菊陽町図書館の少女雑誌コレクションは、この分野の資料を埋めるものとして貴重です。少女雑誌に限定されたコレクションは、約5000冊（タイトル数123誌、関連書含む）にも及びます。大正期を代表する『少女の友』は、378冊（全部で約600冊刊行）を所蔵。初めて〈少女〉という言葉で冠した雑誌『少女界』は45冊（同約130冊）、『少女画報』83冊（同約370冊）、戦後の『女学生の友』も284冊（同約330冊）を所蔵しています。

熱心な収集家による寄贈がコレクションのベース。本欄でこれまでにご紹介したさまざまなサイトと組み合わせることで、特に少女系については必要な資料を見つけることができるのではないのでしょうか。

なお、閲覧には事前連絡が必要で、複写や撮影はできないようです。詳しくはサイトをご確認ください。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その19〉の予定です。

《4》 行って来ました！

和歌山県立近代美術館で開催されている企画展「ホックニーのグリム童話」に行ってきました。デイヴィッド・ホックニー（1937年ー）は、イギリス出身の画家で、油彩画、版画、写真、オペラの舞台デザインなど幅広いジャンルで活躍しており、「世界に対する鋭い洞察を親しみやすい表現で作品にする」と評されています。今回の展示は、同館のホックニーコレクションである初期の代表作から1980年代までの版画作品約100点が展示されています。

その中でグリム童話に関する展示は6冊の挿絵本と39点の別刷。「あめふらし」「めっけ鳥」「野ぢしゃ」「こわがることをおぼえるために旅にかけた男の話」「リンクランクじいさん」「がたがたの竹馬こぞう」の6作でホックニーが全てのグリム童話を読んで選んだそうです。なぜ、この6作？と考えながら作品を見ました。

どの作品も魅力的でしたが、例えば、「あめふらし」の中の「たまごの中にかくれた若者」（1969年、エッチング・アクアチント・ドライポイント、紙）は、灰色で斑点のある卵の中に、ひざをかかえて、一点を見つめている若者の姿が線で表現されています。これは、王女様に見つからないように隠れている場面ですが、現代の若者にも通じる描写で、グリム童話の現代における意味を考えさせられます。他の版画作品には、ホックニーらしい独特の色使いや、多様な視点からの画面構

成が見られましたが、グリム童話はモノクロで二次元的な世界が繰り広げられていたため、昔話らしさを感じることができました。

グリム童話以外では、カラフルで鋭い線や柔らかい線が交じり合った『ブルー・ギター』や、10回以上刷って、破って、コラーージュして、さらに刷るという手法で、ピカソとの関連も思わせる『グレゴリーのイメージ』などに興味をひかれました。

今回の展示は1980年代までの作品でしたが、ホックニーは今もiPadなどで絵を描いているそうです。他の作品が日本で展示されるときにも、ぜひ行ってみたいと思いました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 自然と本のコラボレーション

「森とともにだちになろう！～森の絵本づくり～」

貝塚市にある自然いっぱい少年自然の家で、森の不思議を発見しよう！
見つけたことをおはなしにして絵本をつくろう！それは、世界でたったひとつの絵本、素晴らしい宝物となるでしょう。

月 日：平成24年3月10日（土）～11日（日） 1泊2日

対 象：幼稚園年長～小学生を含む家族、小学生以上は子どもだけの参加可

定 員：10家族または子ども30人まで

申込締切：定員になり次第締切

参加費：有料

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 / 財団法人 大阪国際児童文学館

● 絵本作家 谷口智則さん絵本原画展

期 間：平成24年3月17日（土）～31日（土）

場 所：和泉市立人権文化センター（ゆう・ゆうプラザ内）

※ 谷口智則さんのライブペインティング

日 時：平成24年3月31日（土）午後1時～3時

場 所：和泉市立人権文化センター（ゆう・ゆうプラザ）1階大会議室

定 員：200人

申 込：3月8日（木）午前10時から受付（申込先着順）

主 催：和泉市立人権文化センター 図書室（にじのとしょかん）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『雨上がりのメジン』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.18プレゼント希望」とし、

